

+.....+

【ケアプロ通信vol.107】

8月度ニュース: ケアプロ訪問看護師がyoutubeコンテンツ「シゴトークLive」に出演しました！

+.....+

---

いつも大変お世話になっております。

ケアプロ広報担当です。

8月もう終わりですがまだまだ暑い日が続いていますね。

みなさまお変わりなくお過ごしでしょうか。

8月24日からパラリンピックが開幕しました。

新型コロナウイルスの猛威は収まらず、パラリンピックも引き続き感染症蔓延の不安が残る中での開催となりました。

そのような中での開催ではありますが、

オリンピックと同様に

パラリンピックも選手のみなさんがとても活躍されていますね。

開催期間も残り半分となりましたが、

選手のみなさんの活躍にまだまだ目が離せません。

それでは8月度のニュースをお届けいたします。

---

+.....I N D E X.....+

【1】代表 川添高志

1)ゴリゴリ研修 「コンプライアンスと勤怠管理」

【2】 予防医療事業部

1)実績のご紹介～キリンホールディングス様×丸井様×ケアプロイベント

2)LINEで健康情報をお伝えします

【3】 在宅医療事業部

1)ケアプロ訪問看護師がyoutubeコンテンツ「シゴトークLive」に出演しました！

【4】 交通医療事業部

1)駒崎さんの外出 ～お金を使った方が要望を遠慮せずに伝えられる～

2)「障がい者」ではなく「障害者」に表記統一する理由

3)第15回ロービジョンフットサル日本選手権でのサッカーナース

4)パラスポーツ国際大会での感染症対策レポート

+.....+

+……………代表 川添 高志からのメッセージ……………+

## 1)ゴリゴリ研修「コンプライアンスと勤怠管理」

ケアプロでは、12名の管理監督者のマネジメント研修として、ゴリゴリ研修を行なっています。

ゴリゴリの由来は下記です。

- 1, ゴリラのように優しくて強いリーダーになってほしい
- 2, ゴリラの群れのように信頼できる場にしたい
- 3, 本音をゴリゴリ言い合える場にしたい



# ゴリゴリ研修

ケアプロマネジメント職集合研修

今回は、管理部門の管理監督者が企画・運営しました。  
他の管理監督者からも好評でした！

改めて、企業倫理や社会規範、社内規範を見つめ直し、  
自社や各自のコンプライアンスの取り組みを共有し、  
勤怠管理では、残業の事前承認が確実に行えていないことや  
管理監督者として、疑問に思っていた課題を共有することができました。

一般的に、ハラスメントや残業代未払い、過重労働、不正受給、  
個人情報漏洩、著作権侵害などのコンプライアンス違反は、  
動機と機会と正当化の3つが揃うと起こります。

そして、コンプライアンス防止には、

- ・業務過多ではなく、十分に休みが取れている
- ・社内での良好なコミュニケーション(悪い情報こそ、しっかり共有)
- ・コンプライアンスに関する規程や体制
- ・失敗を許容して組織として対応

の4つが重要です。

ケアプロの3つのバリュー(価値観・行動指針)のうち、  
最も重要なことは、「プロとして正しい医療倫理感を持つ。」です。  
今後も、バリューを発揮できるよう計画、研修、評価、改善していきます。

+……………予防医療事業部長 鈴木 沙由梨からのメッセージ……………+

## 1)実績のご紹介～キリンホールディングス様×丸井様×ケアプロイベント

6/24～27にマルイファミリー溝口店、7/15～18に北千住マルイ店にて  
KIRIN様のプラズマ乳酸菌シリーズ「iMUSE」ご紹介の認知拡大イベントをさせていただきました。

こちらの商品は免疫機能で日本初の機能性表示食品です。  
効果的にPRができるよう、弊社看護師作成の生活習慣チェックシートを元に  
免疫維持へのカウンセリング、商品のご紹介、  
iMUSE飲料を1本プレゼントするイベントを実施いたしました。

8日間で総勢521名の方にご参加いただくことができました。

お客様からお話をお伺いする中で、たくさんのお声をいただきました。  
「以前は店舗に置かれていたから購入していたけど、  
ある時からその店舗に置かなくなってしまって、購入する機会がなくなって  
そのまま買わなくなっちゃったの。」  
「なんとなく買っていたこともあったけど、これってどんな効果があるの？」  
「以前飲んだことあって知っていたけど、こんな味もあったんですね！知らなかった」

商品の良さを理解する機会をお客様に提供することで、  
初めて商品を知っていただくことはもちろん、健康知識をお伝えし、  
再度商品購入を検討していただくきっかけにもつながりました。

健康が大事というのは分かるけど、何をどういう風に気を付けたらいいか分からない。

情報はネットに溢れていますが、沢山情報がある故に面倒に感じ、  
どうしても良くなってしまいう人も少なくないと思います。  
そうした中で、対面で直接スタッフが知識習得の場を提供することで、  
自身の今の生活を維持すべきなのか、それとも改善すべきなのかという方向性がわかりま  
す。  
そしてそれが実際の健康維持や、生活習慣改善のアクションにつながりやすくなります。  
さらに商品をご紹介させていただくことで、お客様に具体的な提案を行うことができます。

お客様の健康づくりに寄与できるイベントと一緒に実施しませんか？  
活用のご検討を頂き、お気軽にお問い合わせいただけますと幸いです。



## 2) LINEで健康情報をお伝えします

7月より定期的に健康コラムを更新しています。

コラム作成は弊社看護師・臨床検査技師が担当しています。

皆さまが感じる「健康に関するちょっとした疑問」を、基礎知識から専門知識まで深掘りして記載しています。

更新時にはケアプロ公式LINEにてお知らせしていますので、友達登録いただくと幸いです。

<https://lin.ee/MvDC5sn>



+……………在宅医療事業部長 金坂 宇将からのメッセージ……………+

## 1)ケアプロ訪問看護師がyoutubeコンテンツ「シゴトークLive」に出演しました！

株式会社マイナビと株式会社Tenxiaで共同運営している、「シゴトークLive」に出演しました！

医療業界で働く方へ明日からのお仕事に役立つ情報をお届けする動画コンテンツ、「シゴトークLive」で、高田雄貴（足立ステーション所長）、木村直樹（足立ステーション）、佐藤文俊（クオリティマネジメント部門診療看護師）の3名が、「訪問看護における多職種連携」をテーマに話をさせていただきました。

全5回シリーズで、8/15現在3回まで公開されました！初回では、訪問看護師が連携を取る際に、ケアマネや医師、ヘルパーなどの職種別に意識しているコミュニケーションの取り方についてお話し、第2弾ではターミナル期のポイントから、病院と在宅の違いについて、第3弾では緊急訪問時のポイントについて、それぞれのテーマを軸に公開しています。

教科書には載っていない現場のノウハウがたくさん詰まった内容となっております。訪問看護についてもっと知りたい、ケアプロの様子を聞いてみたいという方、是非ご覧下さい！

[第1弾 介護職・ケアマネ・医師／職種別連携のポイント](#)

[第2弾 ターミナル期のポイント／病院・在宅の違い](#)

[第3弾 緊急訪問時のポイント](#)



+……………交通医療事業部長 川添 高志からのメッセージ……………+

## 1) 駒崎さんの外出 ～お金を使った方が要望を遠慮せずに伝えられる～

視覚障害者の駒崎さんは、ドコケア利用後に、ご満悦の様子でした。  
今回、外出支援というより、生活問題の解決支援だったのです。

大学で悩んでいたパソコン操作についての相談をしたら解決し、  
家電量販店で店員に聞きにくい枕のことを相談して素敵な枕を購入し、  
銀行ATMにも行きました。

これまで、ガイドヘルパーには、遠慮して「ここまでで良いです」と言っていたのですが、  
今回は自分のお金を使って、自分の要望を遠慮せずに伝えることができました。

「自立訓練を受けたのだから、買い物くらいひとりでできないといけない」  
と思われていらっしやいましたが、私たちが、視覚障害になった時に、  
やはり、誰かに遠慮せずに相談できるといいな、と思いました。

※駒崎さんの記事は[こちら](#)



## 2) 「障がい者」ではなく「障害者」に表記統一する理由

障害者と書くと、人を「害」扱いしないでほしい、という声がありますが、  
下記の理由で、「障害者」に統一しました。

(理由1) 音声読み上げ機能を使う方々への配慮のため

視覚障害のある方々をはじめとして、スクリーンリーダーなどの  
音声読み上げ機能を使って当ホームページをご覧になる方々があります。

そうした場合に、「障がい」は「さわりがい」と誤読される可能性が  
高いことが知られています。

こうしたアクセシビリティの点から、誤読の可能性が低い「障害」を用います。

(理由2) 障害の社会モデルを反映するため

障害のある人々を正しく尊重するための考え方として、  
国際的に受け入れられるようになってきたのは、「障害の社会モデル」です。

障害の社会モデルとは、「障害」を、  
特定の身体的・精神的特徴そのものの問題として理解するのではなく、  
そうした特徴をもつ人々に不利益を強いている他者や環境の問題として  
理解するという考え方です。

障害の社会モデルに従えば、「障害」とは、障害者という個人の性質ではなく、  
不利益を強いる社会の性質ですから、「害」という字が含まれていてもよいでしょう。

ドコケアは、誰もが自由に安心して外出できる社会を目指し、  
外出のハードル＝「障害」をなくすことに取り組んでまいります。

※「障害者」の表記に関する詳細は[こちら](#)

### 3) 第15回ロービジョンフットサル日本選手権でのサッカーナース

7月25日に、埼玉県本庄市において、  
第15回ロービジョンフットサル日本選手権が開催されました。  
1月と5月の2度の延期を乗り越えて、実施に至っています！

そもそも、ロービジョンフットサルとは、  
弱視者(ロービジョン)一人ひとりの異なる視力・視野を生かし、  
お互いを補い合いながらプレーする競技です。

視力のカテゴリでは、以下のB2／B3クラスと呼ばれることもあります。

- ・B1:全盲から光覚(光を感じられる)まで
- ・B2:矯正後の診断で、視力0.03まで、ないし、視野5度まで
- ・B3:矯正後の診断で、視力0.1まで、ないし、視野20度まで

見えにくい状態で、競技するため、傷害リスクがあることと、  
現在は、新型コロナウイルス感染症への対応が必要であり、  
サッカーナースの依頼がありました。

8月24日から東京パラリンピックが開催となりましたが、  
選手も関係者も、無事に過ごせるように願っています。

※サッカーナースの[HP](#)

#### 4) パラスポーツ国際大会での感染症対策レポート

東京2020パラリンピックが開会しました。  
パラスポーツ国際大会が、年々、注目されるようになっていきます。

そのような中、サッカーナースが、感染症対策や救護等で、  
関わらせていただいたブラインドサッカーの国際大会での  
取り組みについて、レポートを公開することになりました。

※レポートは[こちら](#)



様々なパラスポーツ大会において、  
今後も感染症対策や救護等のノウハウの共有が重要ですので、  
パラスポーツ団体等にも参考にさせていただければ幸いです。

今後も、コロナという逆風の中で、様々な障害を乗り越えるために、  
アスリートや関係者の皆さんと一緒に取り組んでいきます。